

別添 3

令和 7 年度厚生労働科学研究費補助金総括研究報告書

厚生労働科学研究費補助金（免疫・アレルギー疾患政策研究事業）

総括研究報告書

アレルギー疾患医療の質および経年推移の可視化と、アレルギー疾患対策基本法に基づく政策的介入効果の評価法の開発に関する研究

研究代表者 長尾 みづほ 国立病院機構三重病院臨床研究部長

研究分担者 堀口 裕正 国立病院機構本部総合研究センター・臨床研究統括部・研究員

森田 英明 国立研究開発法人国立成育医療研究センター・
免疫アレルギー・感染研究部・室長

野田 龍也 関西医科大学・医学部メディカルデータサイエンス
講座・教授

二村 昌樹 国立病院機構名古屋医療センター・小児科・医長

佐藤 さくら 国立病院機構相模原病院・臨床研究センター
アレルギー性疾患研究部・部長

神尾 敬子 東京女子医科大学・内科学講座呼吸器内科学分野・
講師

坂下 雅文 国立大学法人福井大学・学術研究院医学系部門
(附属病院部)・医学研究支援センター・講師

桑原 優 国立病院機構三重病院・臨床研究部・アレルギー

疾患

治療開発研究室長

足立 剛也 学校法人慶應義塾・医学部皮膚科学教室・専任講師

研究要旨

本研究は、アレルギー疾患対策基本法に基づく政策的取り組みの効果と、地域間・年齢層間に残されたアンメットニーズを、レセプト情報・特定健診等情報データベース (NDB) を用いて可視化し、全国比較可能な政策評価指標として構築することを目的として実施している。令和 7 年度は研究 2 年目として、前年度に整備した研究体制および NDB 利用環境を基盤に、本格的なデータ抽出および解析基盤構築を進めた。

具体的には、医科 (MED)、DPC、調剤 (PHA) レセプトを統合した患者単位解析基盤を構築し、ID0 を用いた患者単位集計、D1 日～D31 日の縦持ち化、PHA_CZ を用いた調剤情報補完、都道府県別・年齢階級別・病院・診療所別集計ロジックを整備した。食物アレルギー領域では、アドレナリン自己注射薬 (エピペン) について 2017 年度および 2023 年度データを用いた処方数・患者数解析を進め、経年的な処方動向の把握に向けた集計ロジックを整備した。アレルギー性鼻炎領域では、シダキュア、ミティキュア、アシテアを対象とした舌下免疫療法 (SLIT) の処方実態解析基盤を構築し、新規導入率、継続率、処方医療機関数を評価指標として活用する方向性を整理した。また、アトピー性皮膚炎および気管支喘息領域では、生物学的製剤および JAK 阻害薬の薬剤コード定義、患者抽出ロジック、重症患者

群定義に関する検討を進めた。

さらに、研究班会議を通じて、**Structure・Process・Outcome (SPO)** モデルに基づく政策指標体系を整理し、患者数、処方数、処方医療機関数、継続率、重症患者割合等を組み合わせた全国比較可能な評価指標の構築方針を策定した。これにより、令和 8 年度以降の本格的なアウトカム評価および地域差分析に向けた基盤整備を進めることができた。

A.研究目的

本研究は、アレルギー疾患対策基本法に基づく政策的介入の実効性を定量的に評価し、日本全国におけるアレルギー疾患医療の質および経年推移を可視化することで、科学的根拠に基づく政策形成を支援することを目的とする。研究対象は、食物アレルギー (FA)、気管支喘息 (BA)、アレルギー性鼻炎 (AR)、アトピー性皮膚炎 (AD) の 4 疾患であり、全国規模の診療実態を NDB (レセプト情報・特定健診等情報データベース) を用いて解析する。

令和 7 年度は、特に以下を重点課題として位置づけた。

1. NDB 巨大データを解析可能とするための基盤構築
2. ID0 を用いた患者単位解析ログブックの整備
3. 医科・DPC・調剤を統合した日毎処方データセット作成
4. エピペン処方解析基盤の整備
5. SLIT 薬解析基盤の構築
6. 生物学的製剤・JAK 阻害薬解析基盤の構築
7. 公表審査提出を見据えたマスキング・集計方法の検討

B.研究方法

1. NDB 解析基盤

解析対象は、レセプト情報・特定健診等情報データベース (NDB) に収載された医科 (MED)、DPC および調剤 (PHA) レセプトとする。医科、DPC、調剤レセプトを統合し、患者単位解析には ID1n および ID2 を用いて作成した ID0 を用いる。

レセプトデータは SQL Server 上で管理し、RE、IR、IY、CD、CZ 等のテーブルを用いて解析する。患者単位集計を可能とするため、レセプト通番、ID1n、ID2、医薬品コード、傷病名コード等を用いてテーブル結合を行う。

2. エピペン解析

対象薬剤はエピペン 0.15mg および 0.3mg 製剤とし、対象医薬品コードは以下とする。

WHERE 医薬品コード IN ('628704702','628704802')

医科および DPC レセプトにおいては、D1 日～D31 日に格納された日別処方情報を処方年月日単位の縦持ちデータへ変換する。調剤レセプトについては PHA_IY と PHA_CZ を結合し、調剤月日および調剤数量を取得する。

処方数は使用量および回数から算出し、患者数は ID0 単位で集計する。患

者属性（年齢、性別、都道府県、病院・診療所区分）は初回処方時点の情報を用いる。

3. SLIT 解析

対象薬剤はシダキュア、ミティキュアおよびアシテアとし、対象医薬品コードは以下とする。

WHERE 医薬品コード **IN** ('622627001','622455301','622424701')

医科、DPC、調剤レセプトを統合した日毎処方データセットを作成し、患者数、処方数、都道府県別分布、年齢階級別分布、病院・診療所別分布を集計する。また、新規導入率、継続率および処方医療機関数について評価する。

4. 生物学的製剤・JAK 阻害薬解析

対象薬剤はデュピクセント、オルミエント、リンヴォック、サイバインコ、ゾレア、ヌーカラ、ファセンラ、テゼスパイア、アドトラザーザ、イブグリース、ミチーガ等とする。

WHERE 医薬品コード **IN** ('622608101','629911101','629925501','622964801','622573701','622573801','622793801','622793901','622875101','622920101')

患者数は ID0 単位で集計し、処方数は使用量および回数を用いて算出する。剤形別解析に加えて、成分単位解析を実施する。さらに、傷病名情報、併用薬情報および ICS 使用状況を用いて重症患者群の定義を検討する。

5. 政策指標の検討

政策評価指標については、

Structure・Process・Outcome（SPO）

モデルに基づき、患者数、処方数、処方医療機関数、病院・診療所割合、継続率および重症患者割合を候補指標として設定する。各指標について、都道府県別、年齢階級別および施設区分別に算出し、地域差および医療提供体制の評価を行う。

【倫理面への配慮】

本研究は、既存の匿名化済みのレセプトデータを用いる二次利用研究であり、個人情報保護の観点から倫理的配慮がなされたデータ構造で実施された。研究実施にあたっては、国立病院機構三重病院の倫理審査委員会で一括審査を行い承認を取得済みであり、人権の尊重および不利益の回避に最大限配慮した。対象者個人へのインフォームド・コンセントは不要であるが、研究計画の透明性を担保するため、研究概要および目的等については研究機関のウェブサイト等を通じて周知を図ることとする。

また、研究対象となるデータはすべて非識別化されたものであり、個人への影響を及ぼす情報は一切取り扱っていない。さらに、研究班内でも、解析過程におけるデータ管理体制と情報共有の枠組みを整備し、適正なデータ取り扱いを遵守することで、倫理的妥当性を担保している。

C.研究結果

令和7年度は、NDB 巨大データを解析可能とするための SQL 基盤構築を進

め、医科、DPC、調剤レセプトを統合した解析用データセット作成まで到達した。

エピペン解析では、2017 年度および 2023 年度データについて、処方数、患者数、年齢階級別、都道府県別、病院・診療所別、アレルギー拠点病院別集計を行うための解析基盤を整備した。公表審査前であるため、本報告書では具体的な集計値や増減幅は記載せず、経年的な処方動向の把握に向けた集計を進めたことを報告する。

SLIT 解析では、シダキュア、ミティキュア、アシテアについて、MED、DPC、PHA を統合した日毎処方テーブルを作成し、患者数・処方数解析のための基盤を整備した。

生物学的製剤・JAK 阻害薬解析では、薬剤コードマスタを整備し、デュピクセントを中心として処方数・患者数集計 SQL を試作した。また、複数適応問題、成分単位集計、重症定義の必要性など、今後の解析上の課題を整理した。

さらに、公表審査に対応するため、年齢階級、都道府県区分、病院・診療所区分におけるマスキング対応方法を検討した。

D. 考察

令和 7 年度は、アレルギー疾患政策指標開発に向けた NDB 解析基盤構築を大きく前進させることができた。

特に重要であったのは、単なる薬剤抽出ではなく、巨大 NDB を解析可能な構造へ変換した点である。医科、DPC、調剤レセプトは、それぞれ薬剤情報の格納形式が異なり、MED_IY や DPC_IY では D1 日～D31 日の縦持ち

化、PHA では PHA_CZ を用いた処方日・回数補完が必要であった。また、ID0 を用いた患者単位集計、DISTINCT による重複除去、初回処方日固定など、政策指標として再利用可能な汎用的ロジックを構築した点は、本研究班の大きな成果である。

エピペン解析では、2017 年度および 2023 年度データを対象として、経年的な処方動向を評価するための解析基盤を整備した。今後、公表審査を経た結果をもとに、処方医療機関数や人口補正後指標を含めた地域差および医療アクセスの評価を進める予定である。

SLIT 解析では、新規処方、継続処方、初回管理料などを指標化することで、医師の導入意識や治療継続状況を評価できる可能性がある。一方、生物学的製剤・JAK 阻害薬解析では、複数適応問題、剤形違い、成分単位集計など、疾患定義に直結する課題が存在するため、今後さらに精緻な解析ロジックが必要である。

また、本研究では公表審査、マスキング、データ容量、ストレージ不足など、NDB 特有の制度的・技術的課題を整理した。特に、単純な割合計算でも再度の公表審査が必要となる点や、10 未満セルのマスキング対応は、政策指標開発の実務上大きな制約となる。これらに対応するため、年齢階級、地域区分、病院・診療所区分を適切に設計し、継続的に解析可能な指標体系を整備する必要がある。

さらに、本研究で構築した SQL ロジック、ID0 付与、縦持ち化、PHA 補完手法は、将来的に他のアレルギー疾患薬剤解析にも応用可能である。

今後、令和 8 年度以降の研究では、各疾患ごとの診療指標（例：人口 10 万人

あたり Bio 導入率、継続率、指標疾患あたりの SLIT 処方数など)を開発する予定である。あわせて、アウトカムデータとの関連性を加味したスコア化を進め、都道府県別・施設種別での比較に資するベンチマークモデルの開発を視野に入れる。

E.結論

令和 7 年度は、NDB を用いたアレルギー疾患政策指標開発に向け、SQL 解析基盤の構築、ID0 を用いた患者単位解析、医科・DPC・調剤統合、日毎処方データセット作成を進めた。

エピペン解析では、2017 年度および 2023 年度データを用いて、処方数、患者数、都道府県別、年齢階級別、病院・診療所別解析を行うための基盤を整備した。SLIT 解析では、シダキュア、ミティキュア、アシテアについて、MED、DPC、PHA を統合した日毎処方データセットを作成し、患者数・処方数解析基盤を整備した。生物学的製剤・JAK 阻害薬解析では、薬剤コードマスタの整備、RE 統合テーブル作成、デュピクセントを中心とした処方数・患者数解析 SQL の試作まで到達した。

また、本研究を通じて、WHERE EXISTS 句の相関条件、D1 日～D31 日の縦持ち化、PHA_CZ を用いた調剤情報補完、DISTINCT による重複除去、初回処方日固定による患者数定義、NULL 処理など、NDB 特有の技術的課題に対する実装方法を整理した。これにより、全国規模のアレルギー疾患関連薬剤解析を継続的に実施するための解析基盤が整備された。

さらに、政策指標として活用するため、処方数、患者数に加え、処方医療

機関数、病院・診療所別指標、年齢階級別指標、地域差指標を整備する方向性を確立した。今後は、重症定義、継続率、新規導入率、成分単位集計、ICS 併用指標などを追加し、アレルギー疾患対策基本指針の評価に資する全国比較可能な政策指標体系を構築する予定である。

本年度に構築した SQL 解析基盤および患者単位解析ロジックは、エピペン、SLIT、生物学的製剤、JAK 阻害薬のみならず、今後のアレルギー疾患関連薬剤解析全般へ応用可能であり、継続的な NDB 活用研究の基盤となる成果である。

F.健康危険情報

本研究において、令和 7 年度の解析・検討段階で国民の生命・健康に重大な影響を及ぼすような新たな健康危険情報は確認されていない。NDB を用いた解析は匿名化された二次データを対象としており、臨床的介入を伴う研究ではないため、研究過程で直接的な健康危険情報に接する機会もなかった。引き続き今後の分析過程において、予期せぬ有害事象の可能性が示唆されるデータが得られた場合には、速やかに所定の手続きに基づいて対応する予定である。

G.研究発表

【論文】

<和文論文>

1. 神尾敬子. 慢性気道疾患における気道上皮バリア機能障害:分子メカニズムと治療展望. アレルギー. 2025;74(3):119-123.
2. 桑原優, 細矢慶, 松原優里, 高橋雅和, 徳永舞, 小池由美, 後藤穰, 中村好一, 伊藤靖典. 全国スギ花粉症患者

の実態に関するインターネット調査. アレルギー. 2025;74(3):124-132.

3. 伊藤靖典, 徳永舞, 緒方美佳, 岡藤郁夫, 桑原優, 佐久間弘子, 立元千帆, 徳田玲子, 西本創, 本村知華子, 今井孝成. 日本小児アレルギー学会員における小児アトピー性皮膚炎診療での生活療養指導の実態調査. 日本小児アレルギー学会誌. 2025;39(3):191-198.
4. 本村知華子, 立元千帆, 徳田玲子, 西本創, 伊藤靖典, 緒方美佳, 岡藤郁夫, 桑原優, 佐久間弘子, 今井孝成. 社会保険委員会報告 乳幼児における気管支喘息吸入療法の外來治療管理指導調査. 日本小児アレルギー学会誌. 2025;39(3):208-214.
5. 長尾みづほ. 国内のガイドラインから考える アレルギー・喘息. 小児科診療. 2025;88:163-171.
6. 長尾みづほ. 生物学的製剤. 調剤と情報. 2025;31(10):1926-1947.
7. 長尾みづほ. 三重病院アレルギー科における初診患者の診療実態. 三重県小児科医会会報. 2025;126:25-29.
8. 長尾みづほ. 小児気管支喘息の長期管理薬一吸入ステロイド薬を中心に. 小児科診療. 2025;88(11):1411-1418. <英文論文>

1. Sagara N, Akashi K, Sato M, Nagao M, Katsunuma T. Emulsion containing a chitosan derivative in children with mild atopic dermatitis: A randomized controlled trial. *Pediatr Allergy Immunol*. 2025.
2. Sakaguchi Y, Nagakura K, Takahashi K, Taniguchi H, Ogata M, Okafuji I, Koike Y, Kawada Y, Ito K, Nagao M, et al. Low-dose oral cow's milk challenge outcome for patients on complete avoidance: A multicenter study in Japan. *Pediatr Allergy Immunol*. 2025.
3. Lin CW, Yong SB, Kanai R, Wu LSH, Chen PC, Liu XL, Kao HF, Nagao M, Sato Y, Wei CC, Wang JY, Fujisawa T. Distinct regional allergen sensitization patterns in pediatric populations: A comparative latent

class analysis of sensitization profiles in Japan and Taiwan. *Asia Pac Allergy*. 2025;15(4):247-254.

4. Okubo Y, Kuwabara Y, Sato S, Sakashita M, Morita H. Real-World Effectiveness for Sublingual Allergen Immunotherapy Among School-Aged Children and Adolescents. *Allergy*. 2025;80(12):3359-3368.
5. Adachi T, Watanabe S, Kuwabara Y, Abe Y, Futamura M, Inomata T, Ito K, Kimura M, Kan-o K, Koguchi-Yoshioka H, Kurashima Y, Masaki K, Matsunaga M, Miki H, Nakajima S, Nakamura Y, Ogawa Y, Oka A, Sakashita M, Sato S, Takahashi K, Tamari M, Tsuda T, Yonekura S, Morita H. Exploring Patient and Public Involvement and Engagement in Allergy Research: Cross-Disease and Cross-Stakeholder Perspectives in Japan. *Allergy*. 2026;81(3):902-905.
6. Akaba T, Kondo M, Yagi O, Kan-o K, Arimura K, Kurokawa A, Shiota Y, Arakawa N, Horie Y, Ueda M, Tagaya E. Nationwide trends in utilization and expenditure of biologic agents approved for asthma in Japan: Insights from the National Database (2014-2023). *Respir Investig*. 2025;63(5):915-917.
7. Akaba T, Ueda M, Horie Y, Arakawa N, Shiota Y, Kurokawa A, Kan-o K, Arimura K, Yagi O, Kondo M, Tagaya E. Nationwide trends in the use of antitussive agents in Japan before, during, and after the COVID-19 pandemic: A descriptive study using a National Database. *Respir Investig*. 2025;63(6):1066-1069.
8. Arimura K, Kan-o K, Sato Y, Kikuchi K, Miura H, Sato A, Kondo M, Tagaya E. Age-Dependent Risk of Bronchial Asthma Exacerbation in Respiratory Syncytial Virus Co-infection. *Lung*. 2025;203(1):91.
9. Akasaki Y, Inomata T, Iwagami M, Sung J, Nagino K, Adachi T, Morita H, Tamari M, Kainuma K, Kan-o K, Ogata

H, Sakashita M, Futamura M, Kurashima Y, Nakajima S, Masaki K, Ogawa Y, Sato S, Miyagawa A, Midorikawa-Inomata A, Fujimoto K, Okumura Y, Fujio K, Huang T, Hirosawa K, Morooka Y, Murakami A, Nakao S. The Impact of COVID-19 on Hay Fever Treatment in Japan: A Retrospective Cohort Study Based on the Japanese Claims Database. Clin Transl Allergy. 2024;14(9):e12394.

10. Akasaki Y, Iwagami M, Sung J, Nagano K, Adachi T, Morita H, Tamari M, Kainuma K, Kan-o K, Ogata H, Sakashita M, Futamura M, Kurashima Y, Nakajima S, Masaki K, Ogawa Y, Sato S, Miyagawa A, Midorikawa-Inomata A, Fujimoto K, Okumura Y, Fujio K, Huang T, Hirosawa K, Morooka Y, Nakao S, Murakami A, Kobayashi H, Inomata T. Impact of COVID-19 on care-seeking patterns for hay fever in Japan. Allergy. 2024;79(4):1056-1060.

11. Kan-o K. Asthma-related death trends and biologics use for severe asthma in the super-aged society of Japan. Respiriology. 2024;29(6):455-457.

12. Imoto Y, Sakashita M, Tokunaga T, Kanno M, Saito K, Shimizu A, Maegawa A, Fujieda S. Recent prevalence of allergic rhinitis caused by house dust mites among the pediatric population in Fukui, Japan. World Allergy Organ J. 2024;17(7):100932.

13. Xu H, Tong K, Iwasaki N, Ohgami N, Tazaki A, Kagawa T, Gao Y, Nishadhi DASM, Harusato A, Sakashita M, et al. Alleviating effect of intranasal zinc on symptoms of allergic rhinitis. J Allergy Clin Immunol Glob. 2025;4(2):100408.

【学会発表】

【国内学会発表】

1. 神尾敬子, 野田龍也, 緒方大聡, 正木

克宜, 西岡祐一, 明神大也, 足立 剛也, 森田英明, 今村知明, 玉利真由美, 貝沼圭吾. NDB 解析による重症喘息に対する生物学的製剤の全国使用実態調査:現状把握とその課題. 第73回日本アレルギー学会学術大会, 京都, 2024.

2. 小山佳祐, 坂下雅文, 林優佳, 西岡祐一, 明神大也, 野田龍也, 今村知明, 貝沼圭吾, 玉利真由美, 森田英明, 藤枝重治. NDB レセプトデータを用いた舌下免疫療法の使用実態調査. 第5回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会, 2025.

3. Takahashi C, Miyagawa A, Sato S, Futamura M, Ogawa Y, Nakajima S, Okata-Karigane U, Inomata T, Kan-o K, Kurashima Y, Sakashita M, Masaki K, Adachi T. Unveiling the Impact of Dupilumab on Atopic Dermatitis Treatment in Japan: Insights from Nationwide Real-World Data. 第73回日本アレルギー学会学術大会, 2024.

4. Takahashi C, Sato S, Ukita S, Futamura M, Ogawa Y, Nakajima S, Okata-Karigane U, Inomata T, Kan-o K, Kurashima Y, Sakashita M, Sato Y, Masaki K, Adachi T. Real-world Dupilumab Usage in Pediatric and Adult Atopic Dermatitis Patients in Japan: Clinical Study Using Nationwide Medical Databases. 第61回日本小児アレルギー学会学術大会, 2024.

5. 桑原優. アレルギー性鼻炎:疫学・治療 NDB オープンデータを用いた舌下免疫療法治療薬処方数と食物経口負荷試験件数の都道府県別推移. 第74回日本アレルギー学会学術大会, 2025.

6. 桑原優. 食物経口負荷試験の実施件数推移と地域格差の実態—NDB オープンデータによる2019-2023年調査. 第26回食物アレルギー研究会, 2026.

7. 桑原優. 気管支喘息と関連疾患 小児の長引く咳の鑑別診断—気管支喘息から

稀少疾患まで. 第 41 回日本小児臨床アレルギー学会学術大会, 2025.

8. 長尾みづほ. 外用薬の基本と最新治療～アトピー性皮膚炎診療ガイドライン 2024 に基づいて～. 第 42 回滋賀県小児アレルギー研究会, 2025.

9. 長尾みづほ. 小児食物アレルギー診療 UPDATE 即時型食物アレルギーのトレンドと実践的なアプローチ. 診療に役立つアレルギー検査 Web Seminar Vol.12, 2025.

10. 長尾みづほ. 思春期アトピー性皮膚炎治療における全身療法の位置づけと包括的支援の在り方. 第 62 回日本小児アレルギー学会学術大会 教育セミナー, 2025.

11. 長尾みづほ. アレルギーマーチとアトピー性皮膚炎. 第 57 回日本小児呼吸器学会 イブニングセミナー, 2025.

12. 長尾みづほ. Clinical Remission を目指した小児喘息治療. 第 57 回日本小児呼吸器学会, 2025.

13. 長尾みづほ. 小児アレルギーの最近のトピックス. 令和 7 年度小児アレルギー疾患対策医療関係者研修会, 2026.

14. 長尾みづほ. 食物アレルギーPro-Con ディベート ナッツ類の感作は摂取開始前にチェックするべきか (Con). 第 26 回食物アレルギー研究会, 2026.

15. 長尾みづほ. 小児期に発症する PFAS の現状と課題. 第 74 回日本アレルギー学会学術大会, 2025.

16. 神尾敬子. 重症喘息における IL-13 が優位な患者像について. 第 64 回日本呼吸器学会学術講演会, 2024.

17. 神尾敬子. 呼吸器疾患における上皮バリア機能関連分子群の発現と機能. 第 73 回日本アレルギー学会学術大会 シンポジウム, 2024.

18. 神尾敬子. 最新の喘息研究から考察する病態と治療ターゲット. 2024.

19. 神尾敬子, 佐藤さくら, 足立 剛也, 正木克宜. 医師と医学生のための 21 世紀適々齋塾セミナー. 2024.

20. Hideaki Morita. Heterogeneity of Food Protein-Induced Enterocolitis Syndrome (FPIES). JSA-WAO Symposium, 第 73 回日本アレルギー学会学術大会, 2024.

【国際・国外学会発表】

1. Kan-o K, Kageyama S, Ogata H, Asakawa M, Takeshita T. Oral-derived Bacteria Impact the Lung Microbiota and Are Involved in the Pathogenesis of Chronic Obstructive Pulmonary Disease. American Thoracic Society (ATS) 2025, San Francisco, USA, May 18, 2025.

2. Takahashi C, Sato S, Ukita S, Futamura M, Ogawa Y, Nakajima S, Okata-Karigane U, Inomata T, Kan-o K, Kurashima Y, Sakashita M, Sato Y, Masaki K, Adachi T. Nationwide Big Data Analysis of Atopic Dermatitis Treatments in Japan: Real-World Findings on the Impact of Dupilumab. EAACI Annual Congress 2025, Glasgow, United Kingdom, June 2025.

3. Takahashi C, Sato S, Ukita S, Futamura M, Ogawa Y, Nakajima S, Okata-Karigane U, Inomata T, Kan-o K, Kurashima Y, Sakashita M, Sato Y, Masaki K, Adachi T. Nationwide Big Data Analysis of Atopic Dermatitis Treatments in Japan: Real-World Analysis on the Impact of Dupilumab. Clinical Dermatology Leadership Seminar 2025, Akita, Japan, October 2025.

4. Kan-o K, Shiota A, Ishii Y, Koga T,

Jo A, Inoue S, Okamoto I. Epigenetic Dysregulation Drives Persistent Goblet Cell Differentiation Related to Barrier Dysfunction in Chronic Obstructive Pulmonary Disease. The 29th Congress of the Asian Pacific Society of Respiratory (APSR), Manila, Philippines, November 2025.

5. Hishinuma S, Arimura K, Shiota Y, Kan-o K, Akaba T, Ishii M, Todo K, Yamamoto T, Tagaya E. A Case of Small Cell Lung Cancer with Paraneoplastic Autoimmune Limbic Encephalitis, Positive for Anti-SOX1 and Anti-GABAB Receptor Antibodies. APSR 2025, Manila, Philippines, November 2025.

6. Kan-o K, Watanabe H, Chibana K, Suzukawa M, Tanaka A, Masaki K, Ohta S, Kabata H, Asano K, Ito R, Inoue H, Nakano T, Kanda H, Yamashita T, Obase Y, Kobayashi K, Sugimoto N, Ito Y, Ogata H, Takagi K, Ohshima N, Kinoshita T, Tashiro H, Takahashi K, Oishi K, Hirano T, Sakakibara H, Sennari K, Sugimoto Y, Shiroyama T, Fukahori S, Oguma T, Tomomatsu K, Shimada S, Kondo M, Akaba T, Yoshimi M, Moriuchi Y, Ujiike M, Mitsui M, Shimizu K, Shindo Y, Takasawa S, Wakahara K, Uno T, Miyata J, Ishida A, Tsuji M, Shimada A, Okamoto I. Prospective Evaluation of Clinical Remission with Tezepelumab in Severe Asthma (TERESA Study): Higher Efficacy in Biologic-Naïve Patients. AAAAI Annual Meeting 2026, Philadelphia, USA, February 2026.

7. Kan-o K, Watanabe H, Chibana K, Suzukawa M, Tanaka A, Masaki K, Ohta S, Kabata H, Asano K, Ito R, Inoue H, Nakano T, Kanda H, Yamashita T, Obase Y, Kobayashi K, Sugimoto N, Ito Y, Ogata H, Takagi K, Ohshima N, Kinoshita T, Tashiro H, Takahashi K, Oishi K, Hirano T, Sakakibara H,

Sennari K, Sugimoto Y, Shiroyama T, Fukahori S, Oguma T, Tomomatsu K, Shimada S, Kondo M, Akaba T, Yoshimi M, Moriuchi Y, Ujiike M, Mitsui M, Shimizu K, Shindo Y, Takasawa S, Wakahara K, Uno T, Miyata J, Ishida A, Tsuji M, Shimada A, Okamoto I. Baseline Type 2 Biomarkers as Predictors of Clinical Remission with Tezepelumab in Biologic-Naïve and Biologics-Experienced Patients (TERESA Study). AAAAI Annual Meeting 2026, Philadelphia, USA, February 2026.

8. Sakura Sato, Tatsuya Noda, Masaki Futamura, Mizuho Nagao, Keigo Kainuma, Takeya Adachi, Mayumi Tamari, Hideaki Morita. Trends in Recurrent Anaphylaxis Triggered by Food, Drug, and Insect Allergies from 2015 to 2021: A Population-Based Retrospective Cohort Study Using the National Insurance Claims Database of Japan. EAACI Annual Congress 2026.

9. Kuwabara Y. Data-Driven Identification of Unmet Needs: Insurance Policy Change Sheds Light on the Clinical Need for Pediatric Oral Food Challenges in Japan. APAPARI Annual Congress 2025.

10. Kuwabara Y. Prefectural Disparities in Inhaler Education Fee Use for Under-6s and Adults Aged 65 Years and Older: Data from the National Database (NDB) of Japan. Joint Meeting of the Allergy & Eosinophilic Disease Research Society 2025 and the 34th International Asthma Conference Japan-North Asia Chapter, 2025.

11. Nagao M. Vaccine Allergy. APAAACI Congress 2025, Jakarta, Indonesia, October 2025.

12. Nagao M. Peach Allergy.

International Symposium on Pediatric
Allergic Diseases 2026, March 2026.

H.知的財産権

令和 7 年度において、特許出願・登録、
実用新案登録、著作権の取得等の知的財
産権の出願・取得は行っていない。今後、

診療指標の構築に関するアルゴリズム
や評価スコアの体系化が進展した場合
には、必要に応じて知的財産権の保護に
ついて検討する。